

カ四九師田中二野戦病院  
 旅チ一八七三部隊部隊略歴

年月日	概	要
昭五、六三	勸奨下令	
昭五、五六	陸密甲カ五八号に依り、勸奨下令	
六六	編成	
六六	編成人員、二九〇名 果利出身 鹿見真基二名 他は福岡 佐賀 長崎 熊本 等三縣分率にして、軍医三名 薬剤官三名 衛生将校二名 兵技下士官一名 主計将校一名 衛生下士官(濠工を含む) 兵一九一名 輜重下士官兵六九 名 主計下士官二名 歯科医(兵科出身) 一名を以て、久留米野砲兵カ八 六聯隊に於て、編成完了	
六六	待機 高良台演習場敵舎に於て、待機訓練に従事	
七三	久留米取出程	
七三	輸送船 「あばん丸」兼船門司港出帆	
七三	台湾高雄港入港	
八八	比島 マニラ港入港	

~604~

終の内 八三マ

自 至	
八三	八三 仏印 カムラン港入港 輸送船だまげん丸 敵艦に依り、遭難将校以下三三名、生死不明（昭 云、六三 戦死確認） 八名の負傷者を出せり此の遭難に依り、部隊整備 殆ど交渉せり
八三	八三 主任者は「カムラン」ト「バンゴイル」に日々救助艇に依り上陸
八三	カムラン出港 西貢及フノンベン経由
八三	泰國艦隊到着
八三	海軍長以下 主カ一〇。名は艦出港 柏村大尉以下二〇名は行軍部隊（後送） として残留す
八三	部隊一〇〇名の主カは泰國カンチヤブリ果ヒンダート村附近に於て、列車 事故に依り 死者一四名 負傷者四六名を出せり
八三	病院長は 〇九ヘヒンダート発（健在者三三名並貨物受領者橋口大尉以下 六六名を併せ 指揮し「モールメン」到着
八三	才四九師団行軍部隊患者収容のため牟田見士以下三〇名 「メロード」に出 発（二四 「ヤカインゴツ」の本隊帰隊）
八三	今右患者収容のため 丸山見士以下一五名 「コウカレ」に出港 （二五 「ヤカインゴツ」本隊復帰）

~685~

年月日	概	要
四月九日	<p>盤谷残留中 柏村大尉以下一。名は歩兵一。六联隊行軍 部隊患者收容のため          一ラールヘンに出発 (ハニニ 盤谷帰隊)</p>	
同日	<p>部隊主力は 一モールメンに敵機未撃撃撃に伴い人員器材の損失を避けるた          め 一モールメンに東北一ニ料 一ヤカインゴウに取宿す</p>	
同日	<p>盤谷残留中 藤中尉以下六ニ名は歩兵一。六联隊行軍部隊患者收容のため          行軍部隊と共に盤谷出発</p>	
同日	<p>作戦参加</p>	
同日	<p>部隊主力は 一七 ヤカインゴウ出発 ニヤウレピン到着 今日より断作戦          参加 全地附近の警備に任す</p>	
同日	<p>行軍中の藤中尉以下六ニ名 ニヤウレピン本隊到着</p>	
同日	<p>部隊は全地に於て 赤院開設業務並戦闘訓練に従事</p>	
同日	<p>盤谷残留中 柏村大尉以下五ニ名本隊着依って 部隊全員集結</p>	
同日	<p>盤谷作戦参加 引渡さ一ニヤウレピンに於て、赤院開設業務並警備に従事</p>	
同日	<p>メークテラ附近の戦斗に参加</p>	
同日	<p>前線出動の命を受け 一ニヤウレピンに於て 各種の輸送困難を克服</p>	

年月日	概	要
自 四十 至 五三	全力を盡して「ヤキセン」到着 迄作戦参加	
自 四一 至 四六	四五 セイメン集結待機中 彼我銃砲爆撃逐月熾烈となり 敵村空を蔽い 戦求悪化 転進命令に依り ビンマナ到着 ピンマナに於て 全地死傷を命ぜられ 戦準備完了せるも 状況変化に伴 い転進命令を受け 四五 「ミヨウ」に向ふ タマシゴンの戦斗	
自 五五 至 五五	部隊は「ミヨウ」に向い転進中 敵援甲部隊遭遇熾烈なる戦斗に依り 生死不問 重傷二名を出せり 部隊は依然として 転進「ミツタン」河を渡り 師団集結地「ミヨウガレ」 を經由 タトン果キムンダヨン到着 施設設業務に従事	
自 六一 至 八四	カミ三軍直轄となり 軍並隊集団転進思者七五二六名の患者を収容せり 堅作戦参加 部隊は依然として 全地に於て任務履行	
自 七三 至 八一	原少尉以下一五名 「マルタバ」に患者収容所開設 藤大尉以下一四名 ビリン患者中継所開設	

~604~

	年 月 日
	概 任務遂行中大命に依り終戦 要

2000

2316

才四十九師団病馬廠  
 狼才一八七一五部隊略歴

才四九師団馬廠長  
 小西悦期

年月日	概	要
昭五 六五	輜重兵才三十聯隊補心隊に於て、滿成忠誌	
八三	仏印「カムラン」邊に於て、海軍中隊若に依り、將校一名、兵四名、行方不明 (昭和二十五年六月三十日 死亡確認)	
十一	盤谷に於て、兵一名入院	
十四	入編	
自 一	越作戦参加中 「ビンマナ」縣エラに附近に於て、兵一名戦死	
至 四九		
自 四	越作戦参加中 「ニヨンケ」に附近に於て、兵一名負傷入院	
至 五三		
自 六一	越作戦参加中 「タンゼイク」に附近に於て、下士官一名、「モウルメイン」	
至 八五	附近に於て、兵一名戦死	
自 八五	終戦	
自 八八	緬甸國タトニ縣タトニ庄に戦死のため、下士官一名、兵一名入院	
至 九三		

~609~



ヲ四九師団防波給水部隊略歴

ヲ四九師団防波給水部長代理

木村澄雄

年月日	概	要
五月	ヲ四九師団防波給水部隊動員下令	
六五	ヲ一次動員完結	
七五	ヲ二次動員完結	
七五	部隊一部 老山(七管)出港	
七五	部隊主力 老山(七管)出港	
七九	部隊一部 ちやい丸に依り釜山港出帆	
七三	部隊主力 ちあばん丸に依り釜山港出帆	
八三	部隊主力は仏印ヲカムランニ着沖海域に於テ、敵潜水艦の魚雷攻撃を受け、 将校以下十三名戦死、器材全部を海没す	
八三	部隊主力は仏印ヲバンゴイニ集結す	
九三	部隊一部は、マニラニ着に假泊中、敵の空襲を受け、送給物資器材を 部へ瀧水機甲二機を除き海没す	
十	部隊主力は、パゲール島ヲキヤウタンニ駐留地に到着	



年月日	概	要
自五十八 至五十三	野作戦に参加（ヘブグー附近の警備）	
至一 自一	部隊一部は駐留地に到着 吉村少尉以下三四名 歩兵第一六八聯隊に配属せられ「メーカーテラ」会戦 参加のため、駐留地出發	
至四九 自一	木村大尉以下三五名 「メーカーテラ」会戦参加のため出發	
至三三 自五	部隊主力 「メーカーテラ」会戦参加のため駐留地出發 部隊は「タトン」具「ドインゼイク」に集結「タトン」附近の筑城地に現地 自活作業（征生材料）に従事す	
至四 自十	克作戦に参加	
至五三 自六	堅作戦に参加	
至八四 自八	堅作戦	
至一三 自一	「ゼトマイ」村に移駐す	
至二五 自二	宿營地移動のため 「ヘブグー」具「パヤシ」に着同地集	

825

2320

大 谷 氏  
ヒルマ

四月  
宿營地移動のため、センダレーに移駐

歴代部隊長名

自 天 六十  
陸軍軍医少佐 植村 肇

自 五 十五  
同 大尉 永井 茂

自 三 八三  
代理 陸軍軍医中尉 木村 澄雄

部隊事情精通者

住 所 山形県東置賜郡赤湯町大字赤湯二七四八

和歌山県田辺市中屋敷町二九 佐藤 盛政

佐賀県杵筑郡住吉付大字岩崎三九三三 小島 田茂

井手 貞一

外  
の  
ビ  
ル  
マ

年月日	概略
	高田 秀幸 香川県高松市花園町一ニ〇八 高田 秀幸 香 藤 良 平

114

2322

第五十六師団司令部略歴

第五十六師団長

松

山

祐

三

年月日	概	要
昭十六、十三、至 十三、三〇	軍令陸甲第八十五号により編成下令 編成完結	
自、十七、至 至十七、二、至 三、大	待命間の教育訓練 門司港出張	
自、三、至 至、三、至 三、大	輸送業務 緬甸國南貢上陸	
自、三、至 至、四、至 四、至	「トンブール」より「サルウイン」河谷進出作戦間「ホーボン」 附近に於て	戦死、将校一 下士官三
自、四、至	「バサウン」より「ラシオ」に向う。追撃作戦	戦傷、将校一 兵、四、軍属一

~615~

2323

年月日	概	要
自 昭十七、四、三十 至 五、五	「ラシオ」怒江「ミイトキ」ナレに向う追撃作戦間、「ラシオ」第十三兵站病院に於て 龍陵附近に於て	戦傷死兵一 戦傷下士官一
自 五、十六 至 六、十	怒江反撃作戦	
自 六、十 至 七、三	勐臘察騰越南方地区の掃蕩間に於て昭南第一陸軍病院に於て 第五十六師団司令部は雲南省騰陵県芒市に駐留す。	戦傷死軍属一
自 八、一 至 八、三	怒江右岸地区掃蕩及整備間蘭貢寨百二十四兵站病院より後送 中昭南沖に於て	戦傷死下士官一 戦死下士官一
自 九、一 至 十、三	騰越及「クンロン」平夏地区の討伐間芒市に於て	
自 十、一 至 十一、一	師団長陸軍中将渡辺正夫補多謀本部付に、後任に第百六十四 独立歩兵団長陸軍中将松山祐三親補す。	
自 十一、一 至 十一、三	占領地確保並に対空戦斗	

自 二、一	至 三、三	自 四、一	至 九、三	自 十一	至 十一、三	自 十一、三	至 十一、三	自 十一、三	至 十一、三	自 十一、三	至 十一、三	自 十一、三	至 十一、三
甲号肅清討伐間、鹿町第五十六師団第二野戦病院に於て	緬甸防衛並に次期作戦準備間、パグール泉「ガドウ」附近に於て	芒市第五十六師団第二野戦病院に於て	怒江作戦	「ウ」号支作戦、馬米昭南港附近に於て	比島南方第十二陸軍病院に於て	遠征軍友撃作戦間、龍陵に於て下士官一、戦傷す	断作戦才一期間、「ミイトキ」ナレト於て、将校一、戦死、騰越に於いて、将校三、下士官一〇、戦死、龍陵に於て下士官一、軍属一、戦死、将校一、下士官六、兵一、軍属三、戦傷	戦病死、下士官一	戦死、将校二	戦傷、下士官二	戦死、将校一	戦病死、軍属一	戦死、将校一
戦傷、将校一、下士官六、兵一、軍属三	戦傷、将校一、下士官一	戦傷、下士官二											

年月日	概要
自 十六 至 十五	<p>晚町に於て軍属二戦死、芒市に於て兵一戦傷、芒市第五十六師団第二野戦病院に於て軍属一戦病死、明妙第百二十四兵站病院に於て兵一戦病死、平慶附近に於て兵一戦傷す。</p> <p>軒作戦第二期間芒市に於て将校二戦死、将校二、兵一戦傷、龍陵に於て兵一戦傷、遮放に於て将校一戦死、晚町に於て下士官一戦死、ナムール第五十六師団第二野戦病院に於て下士官二戦病死、遮放東北方に於て下士官一戦傷、センウイレに於て軍属一戦傷す。</p> <p>輾進の為芒市出発</p>
自 十九 至 二十	<p>軒作戦第三期間「ナンバツカ」附近に於て将校一、下士官二戦死、軍属一戦傷、将校一、下士官二戦傷、晚町附近に於て兵一戦死、兵一戦傷、「ナムオ」第五十六師団第四野戦病院に於て下士官一戦傷死</p> <p>「モンユール」東北方二料附近に於て将校一、下士官一戦傷、「サオホン」東側二料に於て下士官一、兵一戦傷す。</p>
自 二十二 至 二十九	<p>軒作戦第四期間「サンパイピン」附近に於て将校一、下士官一戦死、兵二戦傷、「シホール」に於て軍属一戦死、将校一戦傷、「ロンカン」附近に於て下士官一、「モンクン」附近に於て下士官一戦傷す。</p>

外

ビルマ

年

618

年月日	概	要
自 昭和十、四十 至 五、三	克作戦第一期間「ホーポン」西南十科附近に於て軍属一戦死 「タウンダー」に於て下士官三、軍属一戦死、下士官一、兵一、軍属一戦傷 克作戦第二期間「モウチ」に於て下士官二戦死、兵一戦傷「シヤム」国盤開 谷南方第十六陸軍病院に於て将校一戦病死、「チヨパテ」に於て下士官一戦 病死、第百二十四兵站病院に於て軍属一戦病死。「クンヤム」第百五兵站病 院に於て下士官一戦傷死、「クンヤム」第百五十六師団第二野戦病院に於て 兵一戦病死。「モウチ」患者集合所に於て兵一戦病死、「クンヤム」第百二 十四兵站病院に於て軍属一戦病死、「ナンパシ」第百五十六師団第四野戦病 院に於て軍属一戦病死「メナンソン」患者中継所に於て軍属一戦病死	終戦
八、十四 九、一 十、十	救勅の為「シヤム」国に転進 緬甸方面軍第十五野戦郵便隊第三百四野戦郵便所及緬甸方面軍野戦貨物廠（ 東北支廠、西北支廠「トング」支廠、北泰支廠「カロー」出張所）軍属編 入す。 終戦業務間「ロンキヨウ」第百三十四兵站病院に於て将校一、下士官四戦病 死「チエンマイ」第百五兵站病院に於て将校一戦病死。	終戦
自 八、十四 至 四、三〇	「クンヤム」第百五十六師団第二野戦病院に於て下士官一、軍属一戦病死 「クンヤム」第百二十四兵站病院に於て兵一、戦病死、同連第百五十六師団第二	



年月日	概	要
自 四 三 王	野戦病院に於て下士官一戦病死、 「パンカツ」第百二十一兵站病院に於て将 校一戦病死、「チヨペテ」に於て軍属二戦病死、 「メホンソン」患者中、前日に於て兵一戦病死、 「ランパン」第四師団第四野戦病院に於て下士官一戦病死、 「ノンホイ」病院に於て兵一、軍属二戦病死、 「ケマヒウ」第五十六師第二野戦病院に於て兵一戦病死す。 復員準備業務	
一、歴代部隊長名		
ノ、陸軍中将	渡	辺
又、陸軍中将	松	山
	祐	三
部隊事情精通者		
東京都杉並区井沢町二丁目九三	陸軍中佐	永井清雄
福岡県三池郡高田村大字江寺三開水門	陸軍大尉	杉野武雄
長崎県南高来郡西有家町長野	陸軍准尉	安達忠教
福岡県朝倉郡夜須村大字畑島二七二	同	柳光

六二 ヒルハ

歩兵第百十三連隊略歴

第五十六師団  
歩兵第百十三連隊長

大須賀 実

年月日	概	要
昭十六、十五 至 三十一	緬成下令 緬甸衛戍地に於て緬成完結	
至 三十一	陸軍大佐松井登治歩兵第百十三連隊長に補せらる。	
至 三十一	福岡屯營出發	
至 三十一	門司港出帆	
至 三十一	佛領印度支那「サイゴン」上陸	
至 三十一	佛領印度支那「サイゴン」に於て待機	
至 三十一	英領「ビルマ」コラングーン上陸	
至 三十一	「トンブリー」東方山系を經て「ミヤン」地区に向う進出作戰	
至 三十一		戦死將校二名 下士官四名 兵 二三名
至 三十一		戦傷將校四名 下士官六名 兵 四三名

年月日	概	要
自昭十七四年 至 五十五	コミヤンレ地区より雲南省怒江の線に向う進出作戦	戦傷死将校一名 下士官 二名 兵 七名 戦病死 兵三名 戦死下士官 二名 兵 五名 戦傷将校一名 下士官 七名 兵 三六名 戦病死将校一名 兵 五名 戦死将校 三名 兵 二三名 戦傷将校 二名 下士官 四名 兵 三三名 戦傷死兵 一名 戦病死下士官 四名 兵 二五名
自 十七五十六 至 八十五	怒江の線附近に於ける治安確保並整備	(This section is empty in the original image)

外  
マ  
平

222

1978

2330

年月日	概	摘要
自昭十七、九一 至十八、三三	怒江の線附近に至りて占領地の確保	戦死将校二名 下士官二名 兵 三名
自十八、四一 至十九、四、三八	怒江附近の防衛	戦病死将校一名 兵 一四名
四、二九 五、三	蒙南盧征軍の反撃戦	戦死将校二名 兵 十九名
		戦傷将校二名 下士官二名 兵 一六名
		戦傷死下士官三名 兵 五名
		戦死将校八名 下士官八名 兵 一四八名

~623~

2331

年月日	概	要
昭十九、七、十六 自 至 至 至 自 至 自 至 自 至	前連隊長陸軍少将松井秀治叛乱、後任として現連隊長陸軍大佐大須賀実「ビ ルマ」方面軍より転補せらる。 怒江地区より「シヤン」地区への転進作戦 眞耗戦死将校一三名、下士官四三名、兵二九九名、戦傷将校一三名、下士官 六九名、兵三一九名、戦傷死下士官一名、兵五七名、戦病死兵二二名、生死 不明兵五名 「シヤン」地区より「カレン」地区へ転作戦 眞耗戦死将校四名、下士官二九名、兵一五九名、戦傷将校一名、下士官一九 名、兵七五名、戦傷死将校一名、下士官四名、兵五八名、戦病死将校三名、	戦傷将校七名 下士官三四名 兵一〇七名 戦傷死下士官二名 兵二三名 戦病死下士官五名 兵八一名 生死不明下士官一名 兵七名

下士官ニ七名、兵三ニ一名、生死不明兵三名

自二十八、十六

至 五、三、四

五、五十四

五、十六

六、三

六、六

終戦に伴い戦線を整理し、コビルマに国ヲケマピユールに出發シヤムに國

ヲチエンマイルを経てコ南シヤムにメコンナヨークルに集結す。

内地帰還のためコナコンナヨークルに出發

「シヤム」國「バンコック」に出發

浦賀上陸

歩兵第百十三連隊復員完結

一、部隊経歴中特異と認めらるる事項

昭和十九年九月七日連隊副官陸軍大尉夏鉤那人以下將校三六名、下士官二三名、兵六〇名並に孟守備隊として全員戦死す。

同守備隊玉碎前

八月二十七日 保管書類(連隊保管書類一切)を焼却

九月六日 歩兵第百十三連隊軍旗を奉焼

一、歴代部隊長

- ノ 陸軍少将 松井秀治
- ニ 陸軍大佐 大須賀実

~625~

年月日

概

要

部隊事情通者

大分県守佐郡雨川村大字香下一一〇六

陸軍大尉

江口幸男

福岡県福岡市連駈河谷一八

同

水城源助

大名町一〇五

陸軍准尉

久保太郎

同 宋像郡河原村大字稲元九八一

同

内巻山口幸太郎

同 嘉穂郡穂波村字小正三五三

内巻山口勝美

トヨシシマ

歩兵第四百四十六連隊略歴

年月日	概	要
昭和十六年三月十三日	編成下令	
至 十一	大村衛成地に於て編成完結混成隊五十六歩兵團長陸軍少将坂口静夫の隷下に入る。	
自 十一	門司出発	
至 十一	「パラオ」港到着	
自 十一	南部比島作戦中に於ける損耗人員左の如し。	
至 十一	戦死 将校 四 下士官 四、兵 二四、	
自 十一	戦傷 将校 一、下士官 四、兵 一一	
至 十一	蘭印「タラカン」作戦中に於ける損耗人員左の如し。	
自 十一	戦死 将校 一、下士官 一、兵 九	
至 十一	戦傷 将校 二、下士官 五、兵 二九	
自 十一	蘭印「バリックパン」作戦中に於ける損耗人員左の如し	
至 十一	戦死 将校 一、下士官 二、兵 一八	
自 十一	戦傷 将校 一、下士官 二、兵 八	



年月日	概	要
自十七、一、三 至十七、三、三。	「バンゼルマシン」作戦中に於ける損耗人員左の如し	
自十七、二、一 至十七、四、一。	東南部「ボルネオ」勘定作戦中に於ける損耗人員なし	
自十七、三、七	爪哇作戦に於ける損耗人員、左の如し	
至十七、三、三。	戦死 母枝 一 下士官 一、 兵 一四	
	戦傷 母枝 三 下士官 九 兵 四八	
	戦病死 一 兵 一	
十七、三、三	連隊（一大隊（一部欠）欠）は第五十六師団長の兼下に入るべく爪哇出發	
自十七、三、三	輸送業務中に於ける損耗人員左の如し	
至十七、四、九	戦病死 一 兵 一	
四、二。	「ラングーン」上陸	
同	連隊長 山本 恭平大佐 新任 今岡宗四郎大佐と交代す。	
自十七、四、二。	「ラングーン」より「ラシオ」追及間に於ける戦中損耗人員左の如し。	
至十七、四、三。	戦死 母枝 一、 下士官 三 兵 三	
	戦傷 下士官 一 兵 八	
四、三。	「ラシオ」到着と共に第五十六師団長の兼下に入る。	



年月日	概	要
自一七、三、一 至一八、一、三	戦病死 戦傷入院後不明者 占領地確保並に封空戦斗中に於ける損耗人員左の如し。	下士官 一 兵 九
自二、一 至三、三	甲号艇着封伏中に於ける損耗人員左の如し 戦死 戦傷 持枚 戦病死	下士官 一 兵 九 下士官 二 兵 六 下士官 一 兵 八
自四、一 至九、三	「ビルマ」防衛並に次期作戦準備中に於ける損耗人員左の如し。 戦死 持枚 戦傷 持枚 戦病死	下士官 七 兵 九 下士官 二 兵 七 下士官 三 兵 七 下士官 二 兵 一七
自一〇、一 至二、三	戦病人院後不明者 怒江作戦中に於ける損耗人員左の如し 戦死 持枚 戦傷 持枚	下士官 三 兵 四 下士官 一 兵 五 下士官 三 兵 五

630



年月日		概		要	
自 一〇、六	至 三、三〇	生死不明者 戦傷入院後不明者 戦病入院後不明者 断作戦第二期中に於ける損耗人員左の如し。	下士官 下士官 下士官	二 三 一〇	兵 兵 兵
		戦死 将校 戦傷 将校	下士官 下士官	八五 一一〇	兵 兵
		戦病死 将校 戦傷入院後不明者	下士官 下士官	一二 三	兵 兵
		戦病入院後不明者 生死不明者		九二 一〇	兵 兵
自 一三、三	至 二〇、二、三	断作戦第三期中に於ける損耗人員左の如し 戦死 将校 戦傷 将校 戦病死 戦傷入院後不明者 戦病入院後不明者 生死不明者	下士官 下士官 下士官 下士官	九八 二四 二〇 一三六 六	兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵
				四二五 四三三 四六 一六 三	兵 兵 兵 兵 兵

2322

1883

2340

自	至	自	至	自	至
二〇、二、三	四、九	四、一〇	五、九	八、五	二、五、二
斬作戦第四期中に於ける損耗人員左の如し。	戦死 将校 二	戦死 将校 三	戦死 将校 一	終戦に関する命令を接し連隊は逐次緬甸領「ケマピユール」より「サルウィン」	終戦に関する命令を接し連隊は逐次緬甸領「ケマピユール」より「サルウィン」
戦傷 将校 二	戦傷 将校 二	戦傷 将校 一	戦傷 将校 一	河渡河炭田「クンマイル」に向い前進す。	河渡河炭田「クンマイル」に向い前進す。
戦病死 三	戦病死 一	戦病死 一	戦病死 一	泰緬国境通過	泰緬国境通過
下士官 一七	下士官 一七	下士官 一七	下士官 一七	同地 発	同地 発
兵 七	兵 七	兵 七	兵 七	「ナユンナヨーク」到着	「ナユンナヨーク」到着
兵 七	兵 七	兵 七	兵 七	本期間に於ける損耗人員左の如し	本期間に於ける損耗人員左の如し
兵 七	兵 七	兵 七	兵 七	戦病死 将校 五	戦病死 将校 五
兵 七	兵 七	兵 七	兵 七	下士官 三五	下士官 三五
兵 七	兵 七	兵 七	兵 七	兵 一三	兵 一三
兵 七	兵 七	兵 七	兵 七	兵 一三	兵 一三

~833~

2341

年月日	概	要
五、三	連隊主力復員完結	
五、二四	不詳	
五、二五	車隊主力(第二二三大隊欠)大竹港上陸、各大隊は逐次内地に上陸するも日次	
二、五、一三	内地掃蕩の為、コナコンナヨコックレ港	下士官 一 兵 八
二、五、一五	コバンコックレ出航	兵 三
	戦病入院後不明者	兵 一
	逃亡者	
	生死不明者	
	※ 歴代部隊長名	
	ノ、陸軍大佐	山 本 恭 平
	2、陸軍大佐	今 岡 宗 四 郎
	※ 部隊事情精通者	
	住所 福井県坂井郡芦原村市三三の二	陸軍大尉 安 島 笠
	長崎県佐世保市新橋町	陸軍大尉 永 田 岩
	熊本県菊池郡河原村大字藤田三三の二	陸軍大尉 高 木 専 一
	鹿児島県鹿嶋郡谷山町和田八六	陸軍大尉 渡 鬼 武 則
	長崎県西彼杵郡茂木町飯番村四五五	陸軍大尉 大 見 正 男

~634~

2342

歩兵第百四十八連隊略歴

第五十六師團歩兵第百四十八連隊長 柏原 照展之輔

年月日	概	要
昭一六、二、二五	勳賞下令	
一三、二五	勳賞着手	
一三、二二	編成完了	
一七、二、二五	門司港出帆	
三、三	西貢上陸	
三、八	出発	
三、二六	緬甸南貢上陸	
三、二七	「サルウイン」河々谷に向う進駐作戦中「トングール」及「ケマピエール」附近に於て將校ニ、下士官兵十五戦死、負傷五四名	
四、二四	「ケマピエール」より「ラシオ」に向う進駐作戦中「ザエツト」ロロイユ	
四、二五	「ラシオ」ラシオレ附近に於て長夜ニ、下士官兵一八戦死、負傷三十一名	
四、二九	「ラシオ」より「ミットキーナ」ト向う進駐作戦中「呢町」附近に於て將校一、	
四、三〇	下士官兵三戦死、下士官兵三戦傷死、負傷一三名	
五、二五	怒江省岸地区反撃作戦中「廠」附近に於て將校、下士官兵一七戦死、兵一戦傷	
五、二六	死、負傷八名	
六、一〇		



年月日	概要	要
自一七、六、一 至七、三	檜櫨寮及膳越南方地区の掃蕩中「クンロン」附近に於て戦死兵一、戦傷二名	
自八、一 至八、三	怒江右岸地区の掃蕩中曉町附近に於て兵二戦傷す。	
自九、一 至二、三〇	将校一戦死、下士官兵二戦傷死、負傷五名 膳越「クンロン」及平邊地区の討伐（イ号討伐）中島面閩南甸蒲田檜櫨寮附近に於て将校二、下士官兵四戦死、兵一戦傷死、負傷一九名	
自一三、一 至一八、一三	膳越附近討伐中兵一戦死、負傷三	
自二、一 至三、三	甲吾肅清討伐中東衛馬面閩南附近の戦闘に於て将校一、下士官兵一三戦死、下士官一戦傷死、負傷一四	
自四、一 至九、三〇	緬甸防衛並に次期作戦準備中膳越北方地区の掃蕩に於て馬面閩附近に於て将校一、兵六戦死、兵一戦傷死、負傷八	
自十、一 至十一、三〇	怒江作戦中空査河附近に於て下士官兵五戦死、負傷八	
自一三、一 至一五、四、六	「ウ」号支作戦中里仁村附近の討伐に於て将校一、下士官兵八戦死、兵二戦傷死、負傷七。	
	三月十一日保山県大逃察戦斗にて兵一行方不明なり、其の後状況不明なり。	
	八号作戦参加の逸第一大隊は四月十日干崖米発「ミートキ」方面派遣す。	

~236~

自 一九、四九	至 七、五	<p>遠征軍反撃作戦中大塘子、大塘子鞍部、黃山、馬鞍山、冷水溝、岳陽、閩嶺、廣街、瓦甸、紅首一街、哨坡附近及「ミートキー」附近に於て將校二九、下士官兵五二二戦死、下士官兵四戦傷死、負傷、將校二四、下士官兵七九四</p> <p>龍凌救援の爲第三大隊を師団直轄とし、六月二十六日騰越出發派遣す。</p>
自 七、六	至 一〇、五	<p>断作戦第一期中隊主力は騰越にて第一隊は「ミートキー」附近、第三大隊は龍陵、平憂附近に於て將校二、下士官兵二七五戦死、下士官兵三三戦傷死、負傷五三九、此の外(騰越に於ける玉砕者、將校五二、准士官下士官三四五兵一、三七七、計一七七五)八月十三日連隊長蔵重大佐戦死、楠野大佐連隊長として赴任途中九月八日芒市にて戦病死、九月十四日連隊長として赴任三大隊主力(騰越に於て玉砕)十一月二十三日、神保大佐連隊長として赴任芒市到着、当時、同地附近に於て戦斗中の第三大隊を指揮す。九月二十六日「ミートキー」方面派遣中第一大隊主力(約三〇名)連隊復帰</p>
自 一〇、六	至 一二、三三	<p>断作戦第二期中龍凌芒市速攻襲中附近の戦斗に於て將校六、下士官以下九六戦死、將校一、下士官兵三十五戦傷死、將校二、下士官兵一八九負傷、十一月二十一日兵一名速放西方ニ料附近に於て行方不明となれり、其の後状況不明なり。</p>
自 一三、三三	至 三三、	<p>断作戦第三期中「ムセ」モ「ンエ」イ「ナイ」ロ「ラ」シ「オ」附近の戦斗に於て將校九、下士官兵一ニ〇戦死、六一三戦傷死、負傷一四一</p>

2337

2345

年月日	概要
自 三、三二 至 四、九	二月十五日隊長「ナムバ」附近転進中兵一〇名行方不明となり其の後状況不明なり。 斬作戦第四期中二月九日「ナムオン」に於て相原大佐連隊到着、神保大佐と連隊長更迭「ラシオ」「シホ」附近の戦斗に於て将校三、下士官兵五五戦死、下士官兵八戦傷死、負傷六五
自 四、一〇 至 五、二八	三月二十四日連隊「ライカ」附近転進中将校一、兵一行方不明となり、其の後状況不明なり。 克作戦第一期中「ラウサウク」「ワロ」附近の戦斗に於て将校一、下士官兵二一戦死、一上官兵一〇戦傷死、負傷二六
自 五、三〇 至 八、二四	克作戦第二期中「カロー」「シキツア」「ペンラウン」「インデー」附近の戦斗に於て下士官兵二四戦死、下士官兵十四戦傷死、負傷二一
歴代連隊長	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、大佐 松本 喜六</li> <li>2、大佐 磯重 康三</li> <li>3、大佐 柳野 豊重</li> <li>4、大佐 神保 豊三</li> </ul>
部隊事情精通者	所 佐賀県佐賀郡東川副村大字大窪七、一番地 陸軍中尉 立石 真幸 福岡県三池郡高田村飯江四三 陸軍中尉 立石 真幸

638

2346

搜索第五十六連隊略歴

搜索第五十六連隊長

柳川

明

年月日	概	要
昭二五、八一	軍令陸乙第十九号に依り搜索第五十六連隊編成着手	
八、〇	編成完結	
一六、七、三	関東軍野戦貨物廠及搜索第十二連隊整備下令編成着手	
七、一九	関東軍野戦貨物廠編成完結	
七、二〇	搜索第十二連隊編成完結	
七、二五	軍令陸甲第八十五号に依り搜索第五十六連隊臨時編成下令着手	
一三、三三	編成完結	
一七、二、二	南方冰遣の為屯営出発	
二、一四	門司港出発	
三、三	佛印西貢港上陸	
三、八	佛印西貢港出帆	
三、二六	「ビルマ」蘭貢港上陸	
三、三二	「トンゲ」附近進出の為「蘭貢」出発	
三、三六	「サルウイン」河谷に向う前進作戦に於て准士官一、下士官三、兵一戦死	
至 四、一五		

年月日	概要
自 四、二六 至 四、三九 自 四、三〇 至 五、一五 五、四 五、五	「パサウン」より「ラシオ」に向う進撃作戦に於て将校一、下士官二、兵二戦死。 「怒江」及「ミイトキナ」に向う追撃作戦に於て将校三、下士官四、兵一戦死。 「パーモ」地区掃蕩及警備 連隊は竹内兵団に「パーモ」警備を申送り、新警備地区「センウイ」に向い前進す。

640~

2348

2348

内ワ、ビルマ

印

野砲兵第五十六連隊（龍第六七三九部隊略歴）

年月日	概	要
昭一六、三、五	軍令陸甲八五号により臨時編成下令	
三、三三	編成完結、陸軍大佐東美宗次、連隊長に補せらる。編成人員一、六三六、馬区一、一三、火砲二七門	
一七、三、六	門司港出帆	
三、五	「サイゴン」上陸	
三、一三	「サイゴン」出帆	
三、二六	ビルマ国ラングーン上陸、直ちにトンブー附近の戦斗に参加	
四、二	トンブー出発、カレン州の南シヤン州、北シヤン州に於ける重慶ビルマ連合軍を駆逐。	
四、九	其の一部ラシオに到着	
五、一	更に潰走する敵を退け、雲南省に進攻、怒江の線に駐撃	
五、十	雲南省、北シヤン州占領地区の警備確保並に教育訓練に移行す。	
十六、三、一	連隊長東美宗次は久留米師団司令部付に補せられ、中佐山崎周一郎暫補せり。爾後、昭和十九、三、二七迄主力は北シヤン州「クツクイ」に在りて教育訓練、警備対空戦斗に従事す。	
一七、三、末	連隊二ヶ大隊の野砲を山砲編成に改編	

~41~

2349

年月日	概	要
昭一八、三	之を完成	
一九、三	連合軍のビルマ奪回の企図活発化し、連隊は一部のフーコン地区、ミイトキ 一ナ地区に配備せられ、主力は雲南省怒江正面に配置せらる。	
一九五、三	重慶軍の未攻よりえを怒江の線に阻止しありたるも、新祝上、龍陵、芒市、 畹町の線に逐次後退。	
二〇、三	ナムパツカ附近より英師軍の未攻を設け、之を阻止しつつ、ランオシー、ホー タウンギーに後退、続いてカレ川に於て、北方及トングー方面よりの敵の攻 撃を阻止し、逐次ケマピエー周辺に集結中、終戦となる。	
二〇、七	連隊長山崎周一郎死す。	
指揮隷属関係及び其の変遷の概要	第五十六師団長の隷下にありて	
昭一六、三	第二十五軍司令官隷属に入り	
一七、三	第十五軍司令官	
一九、二	ビルマ方面軍司令官直轄	
二〇、四	第三十三軍司令官	
二〇、五	ビルマ方面軍司令官直轄	
二〇、七	第十五軍司令官	
参加せる主要なる作戦(戦斗)の概要		

年月日	概	要
自 昭七、三、三 至 四、五	サルウイン河谷進出作戦に参加 一部はトングリ附近戦斗に参加	
自 七、四、一六 至 四、九	一部はツイチャン(カレン州)ホーボン(南シヤン州)ケンマンサン、 「シーホーレ」ラシオレ附近の戦斗に参加	
自 一七、五、一 至 五、五	「ラシオレ」より怒江及「ミイトキーナ」に向う進撃作戦参加 眺町、龍陵、拉孟附近の戦斗に参加	
自 一七、五、一 至 一七、六、一〇	怒江、右岸反撃作戦残敵掃蕩戦に参加 一部は龍陵、拉孟附近に未収せる重慶軍残敵と交戦	
自 一八、一、一 至 一、三	主力は各占領地区の警備 怒江作戦参加、騰越北方地区の戦斗に参加	
自 一九、四、一 至 七、五	遠征軍反撃作戦に参加 主力は拉孟、騰越、龍陵、平嘎等怒江の線に於て未収え敵を	
自 一九、七、六 至 一〇、五	断作戦(第一期)に参加 雲南省拉孟、騰越、龍陵、芒市、平嘎附近の戦斗に参加し、拉孟三七三名、 騰越三七名は全員戦死す。	

243

2351



年月日	概要
自昭九、一〇、六 至 二、二〇	断作戦（第二期）に参加す 雲南省龍陵、芒市、遮放、栗中、附近の戦斗に参加（以上重慶軍と交戦）、
自昭九、三、三十一 至 二〇、二、二〇	断作戦（第三期）に参加す 雲中、皖町北シヤン州、ナムパカレ、ラシオレ附近の戦斗に参加
自昭二〇、三、三十一 至 四、九	断作戦（第四期）参加 北シヤン州、クシーポール、ナムウル附近の戦斗に参加す
自 二〇、四、一〇 至 五、五	克作戦第一期参加、カローレ附近、戦斗参加
自 二〇、五、三〇 至 八、二四	克作戦第二期参加、カローレ、ロイコウレ、モウチレ附近の戦斗参加（以上英師軍と交戦） 終戦より帰還途の行動概要 連隊はカレン州、ケマビユー附近に集結、主要兵器を返納 シヤム国チエンマイに集結のため行動開始 「ビルマ」「シヤム」国境通過 チエンマイ地区集結、武装解除を完了す プラチャンブリー県ナコンチヨーク集結のためチエンマイ出発 同地到着、復員行動の待機

<p>二、五、一五 内地帰還のためチコンナヨーク出発</p> <p>五、三四 「パンコツフレ」出発</p> <p>六、二一 浦賀沖到着 昭二、六、一七 浦賀上陸</p> <p>一九 復員完結</p> <p>其の部隊の経歴中特異と認めらるる事項等なし</p>	
--	--

245

2353